

議 事 録

会 議	長野市中心市街地活性化協議会 総会	
議 事	①長野市中心市街地活性化基本計画〔長野地区〕(素案)について ②協議会の活動予定 ③意見交換 など	
日 時	平成19年2月21日(水) 13:30~15:00	
場 所	長野商工会議所 大会議室(5階)	
出席者 (敬称略)	■正会員 ・(株)まちづくり長野 塚田国之、服部年明、越原照夫、羽田稔 ・長野商工会議所 青木恵太郎、渡辺晃司 ■準会員 ・長野経済研究所 平尾勇 ・長野市役所 丸山文昭、島田稔、伝田賀弘、久保幸一、小林弘明、北原孝 ■協力会員 ・長野県住宅供給公社 2名 ・長野信用金庫 1名 ・信州大学工学部 土本研究室 2名 ・長野市市民公益活動センター 1名 ・歴史の町長野を紡ぐ会 1名 ・北村忠三 ■その他関係者 39人 <div style="text-align: right;">(計60人)</div>	
資 料	①会議次第 ②長野市中心市街地活性化基本計画〔長野地区〕(素案)について ③協議会の活動予定	【資料1】 【資料2】
内 容	(会員A) ・線から面へとあるが、回遊導線、補助線がないと回遊しない。 ・西側の図書館に向かう道はどのように整備するのか。 (市担当課) ・基本計画は5年間で区切った計画なので、イメージとして記載してある。 ・親水性のある道の計画などもあり、そういうものも含め面的な回遊性にしていきたい。 (会員B) ・ユニバーサルなまちづくりにどのように当事者参加させていくか。 ・LRTの計画はどうするか。 ・NPOのコミュニティビジネスなど市民活動につながるものができるか。	

(市担当課)

- ・ユニバーサルデザインのまちづくりは当然やっていく。
- ・LRTは研究していく。41番の「新交通システム調査研究事業」で行う。
- ・空き店舗を活用しコミュニティビジネスを行うなど、もう少し時間をかけて検討する。

(会員B)

- ・事業は数が多ければいいという問題ではないので優先順位を分かりやすくするなど、まとめられないか。
- ・表参道の扱いについて、どのように活かすのか活かし方が見えてこない。18m道路が小路や川と一体となってコミュニケーションがとれる道路となるのかどうか。将来の活用策を明確にしてほしい。

(タウンマネージャー)

- ・53事業のくくりはきちんとして、一つ一つがどういう役割を果たすのかは明確にしていく。町衆が動かないとこの計画の事業は動かない。エリアごとの魅力づくりも大切。
- ・先ほどのNPOのコミュニティビジネスについては、諏訪市の匠のまち、大田原市の地産地消など空き店舗、空地対策として行われている例がある。TMOだけではなく皆さんに参画していただくことが必要。
- ・面的な回遊性には小路の活用が必要。会津や金沢でも小路の魅力が増した。長野にも東町、後町、トイゴの裏など小路があり、楽しいエリアにするために地域地域で提案していただき、蔵なども活用させていただくことで、商業機能、お年寄りの場など、いろいろな活用が可能となるのではないか。

(参加者A)

- ・これからのまちづくりは高齢者がポイントとなる。遊びも知っているし買い物も出来るが行動範囲が狭い。
- ・セニアカー（電動車いす）に乗る人が増えているが、歩道は行き違いできないし車道にもいけない。専用ゾーンを考えるなど安心してセニアカーで移動できるまちづくりを考えてほしい。
- ・セニアカーは郊外の方が普及している。郊外から中心市街地へセニアカーを運ぶシステムを考えてほしい。

(参加者B)

- ・牛歩らん会は、タウンモビリティ推進活動を行っている。53事業の中では、8、23、25、32、41、42の事業など、いろいろなところでご提案できる。

(会員C)

- ・基本計画素案は国提出までに時間がなく、どのくらいの長野市民が見ることができるかと思った。協力会員も少ない。今日の参加者も少ないのでは？

(事務局)

- ・協力会員は現在9団体であるが、新たな申請は12~13団体から提出されていて、来週の

運営会議で承認されれば全部で 20 団体くらいになる。今後も随時申請を受けていくので徐々に参画者を増やしていきたい。

(参加者 C)

- ・ 権堂地域の事業はどうなるのか。計画にあまり出てきていない。

(市担当課)

- ・ 権堂の低未利用地や空き店舗の活用をどうしていくか、ご提案もいただいきたい。暮らし・賑わい再生事業計画や優良建築物等整備事業等でも検討できるのではないかな。

(参加者 D)

- ・ ハートビル法の条例化やバリアフリー新法はどうか。

(市担当課)

- ・ 高齢者にやさしいまちに配慮して各担当課でも取り組んでいる。例えばトイレもまちなかに設置したいと思っているがなかなか土地を貸してもらえない。実施していくには関係者の皆さんの協力が必要。

(会員 B)

- ・ 中心市街地は市民全員の財産であるので、郊外の人からも中心市街地にこんなものをつくってほしい等の提案を受けなければダメではないか。例えば北信全体から会議所が提案を吸い上げるとかできないか。

(参加者 A)

- ・ 松本にはパルコがあり広域から集客している。長野のマーケティングはどうか。

(会員 D)

- ・ シネコン、ぱていお大門など拠点施設を整備しながら外から客を呼ぶ努力はしている。いくつかの新しい計画も考えている。補助をもらいやるもの、民間ベースでやるもの、いろいろと検討していく。

(タウンマネージャー)

- ・ マーケティング調査、提案計画は分析すればなかなか事業化へと踏み切れない面もあるが、低未利用地を活用したこれからの時代の事業計画を提案していくことは必要。

(会員 E)

- ・ 病院、学校など郊外に出てしまったものを戻すのは難しい。ソフト面を計画に大いに入れて、皆で取り組んでいきたい。